こですHOKKAIDO 2020

（令和２年度版）

Collected papers Domestic Science Studies

北海道高等学校長協会家庭部会

こです HOKKAIDO 2020 【令和２年度版】

目　　次

○　巻頭挨拶　1
北海道高等学校長協会家庭部会長　北海道江別高等学校長　吉田岳夫

○　「これからの家庭科教育」　2
北海道教育庁オホーツク教育局高等学校教育指導班　指導主事　後藤幸洋

Ⅰ　令和２年度北海道高等学校長協会家庭部会活動報告
◆ 北海道高等学校長協会家庭部会の組織と今年度の事業内容について　3
北海道高等学校長協会家庭部会長　北海道江別高等学校長　吉田岳夫

◆ 北海道高等学校家庭科教育研究協議会企画委員会報告　5
北海道高等学校家庭科教育研究協議会会長
北海道月形高等学校長　宮﨑円

◎ 研究発表
□ 提言１ テーマ　ブレインズオンのスイッチを入れるICTの活用
～思考の可視化と共有でアクティブな学びの場をつくる～　6
北海道札幌北高等学校　教諭　松本奈巳

□ 提言２ テーマ　教科横断型幼稚園交流学習　7
北海道阿寒高等学校　教諭　和田美智子

Ⅱ　令和２年度北海道高等学校家庭クラブ連盟活動報告
◆ 北海道家庭クラブの活動について　9
北海道高等学校家庭クラブ連盟成人会長
北海道江別高等学校長　吉田岳夫

◎ 第69回　北海道高等学校家庭クラブ連盟研究大会・総会を終えて　10
北海道釧路明輝高等学校　教諭　荒嘉律

Ⅲ　家庭科教育に関する報告
1　第８回　北海道高等学校長協会家庭部会意見・体験発表大会を開催して　11
事務局　北海道江別高等学校　教諭　鈴木朋美

2　初任段階教員研修Ⅰ年次研修（高等学校）「一般研修」に参加して　12
北海道釧淵高等学校　教諭　髙倉彩

3　中堅教諭等資質向上研修（高等学校）第Ⅰ期・第Ⅱ期研修教科別部会（家庭科）に参加して　13
北海道芦別高等学校　教諭　山田真代

Ⅳ　各地区（ブロック）家庭科研究会の一年間の活動状況　14
1　空知管内　2　石狩管内　3　後志管内
4　胆振管内　5　日高管内　6　渡島・檜山地区
7　上川・名寄地区　8　留萌管内　9　宗谷管内
10　オホーツク管内　11　十勝管内　12　釧根地区

Ⅴ　特別寄稿
◆ 家庭科教育への期待　19
札幌西陵高等学校長　髙瀬雅朗

◆ 江陵高等学校の閉校によせて　20
江陵高等学校長　若宮栄

○　編集後記　21
北海道名寄産業高等学校長　坂野裕悦

巻 頭 挨 拶

北海道高等学校長協会家庭部会長
北海道江別高等学校長　吉　田　岳　夫

日頃より、北海道高等学校長協会家庭部会の運営に多大なるご支援を賜り、心よりお礼を申し上げます。今年度は、全道190校の加盟をいただきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、予定していた事業のほとんどを中止・縮小、または書面にて実施と今まで経験したことのない１年となりました。そのような中におきましても、北海道教育委員会、北海道高等学校長協会、加盟いただいた各高等学校等の関係各位のご理解とご協力をいただき、深く感謝申し上げます。

さて、次期学習指導要領において家庭科の教科の目標を達成するため、「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指している。」と掲げられていることから、コロナ禍の中におきまして、ますます家庭科教育は、生徒たちの生涯にわたって、持続可能な生き抜く力を育成する重要な教科となっていくと確信しております。

コロナ禍の中で、ほとんどの事業が中止となる中、８月に江別高校を会場に実施した第８回家庭部会意見・体験発表大会および１０月に釧路明輝高校が当番校で実施した北海道高等学校家庭クラブ連盟研究発表大会の「研究発表」は、ともに書類による審査にて実施いたしました。生徒の活躍の場を提供するため、可能な限りの取り組みを見出していただきました当番校および参加者・関係するすべての方に感謝申し上げます。

８月より予てからの懸案事項でありました「家庭部会ホームページ」を開設する運びとなりました。部会のホームページを開設することにより、今まで以上に家庭部会の状況を速やかにお知らせすることができるとともに、各加盟校の家庭科の先生方への情報提供等も今まで以上に迅速に行えることになります。

また、当部会に関係する「家庭科技術検定委員会」「福祉委員会」「学校家庭クラブ」「全国高等学校長協会家庭部会」「全国家庭科教育振興会」にもリンクできるようにしていますので、情報提供や必要書類のダウンロードなどもスムーズに進めることが出来るようになります。時代は変わっても家庭科教育の根底にある使命は不変のものがあります。それは、生涯にわたって「生き抜く力」を育成することに尽きると感じております。そのために各校の家庭科の先生方は日々奮闘されており、その情報交換などにも役立つことが出来るようにという思いもありホームページの開設に至りました。

是非ともこのホームページを加盟校の校長先生をはじめ、各校の家庭科の先生方にとって有意義なものになり、有効活用していただきますようお願い申し上げます。

次年度以降もコロナが終息する如何に関わらず、家庭部会に対する皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げ、巻頭のご挨拶といたします。

【家庭部会ホームページ】
http://www.do-kateibukai.hokkaido-c.ed.jp/

これからの家庭科教育

北海道教育庁オホーツク教育局高等学校教育指導班
指導主事　後　藤　幸　洋

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う臨時休校や分散登校から始まり、新しい生活様式に基づいて生活を送るという今までに経験したことのない１年となりました。

臨時休校中には、「Stay Home」が叫ばれ、自由に外出できない日々を過ごされていた人も多かったことと思います。

このような中、私自身、食事の準備やお菓子作り、マスク作り、手芸、掃除や部屋の片付け、そして家族との団らんなど、普段できなかったことに時間を使ったり、より充実した生活を送るためにさまざまな工夫をしたりすることを通して、家の中で何ができるか、どのように生活を楽しむかについて考える機会が増えました。家庭科教育は、私たちの生活に密接し、生徒たちの生涯にわたって、持続可能な生き抜く力を育成する学問であることから、改めて家庭科教育の重要性に気付くことができました。

また、先生方におかれましては、新型コロナウイルス感染症対策により、年間授業計画の変更が余儀なくされ、特に、実習・実験については、試行錯誤しながら取り組まれた１年だったと推察します。

さて、家庭科は男女必履修となり、今年で25年目となります。平成30年３月30日に告示された新しい学習指導要領では、従前の家庭科の目標の趣旨を継承するとともに、少子高齢化や成年年齢の引き下げ等の対応、持続可能な社会の構築、食育の推進、男女共同参画社会の推進など、高等学校の家庭科教育は一層重視されています。また、家庭科の改訂の要点として、実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい社会の構築に向けて、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質･能力の育成を目指すとともに、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善が図られるよう、目標及び内容を改善・充実し実践を評価・改善して、新たな課題の解決に向かう過程を重視した学習の充実を図ることが明記されています。そして、家庭科における「見方・考え方」は、領域横断的に貫く視点が、①協力・協働、②健康・快適・安全、③生活文化の継承・創造、④持続可能な社会の構築の四点が明示されています。さらに、小・中・高等学校の系統性も明確化されました。

コロナ禍において、見通しの立たない中、不安なことも多々あると思いますが、新学習指導要領の趣旨・内容を踏まえ、令和４年度からの実施に向け邁進していただきたいと思います。

最後になりますが、生徒指導上の喫緊の課題として、生徒の「援助希求能力の育成」が求められています。このスキルの育成については、教科「家庭」においても今後、重要な役割を担うことが考えられます。教科横断的な取組みを推進することで、生徒が自らの人生や自他のいのちの大切さについて考察させる機会を設定するとともに、例えば、教育相談の手法を授業の導入時に織り交ぜるなど、生徒一人一人に寄り添った指導について検討することが肝要となります。

先生方には、これまでにも本道の家庭科教育の充実・発展にご尽力いただいていることに深く感謝申し上げますとともに、今後ともご協力をお願いいたします。併せて、部会長である北海道江別高等学校の吉田岳夫校長先生をはじめ関係各位に深くお礼を申し上げ、ご挨拶といたします。

Ⅰ　令和２年度北海道高等学校長協会
家　庭　部　会　活　動　報　告

北海道高等学校長協会家庭部会の組織と今年度の事業内容について

北海道高等学校長協会家庭部会長　　吉　田　岳　夫
（北海道江別高等学校長）

今年度、北海道高等学校長協会家庭部会には、190 校の加盟をいただきました。加盟並びに各種のご支援ご協力をいただいたことに厚く感謝申し上げます。

今年度の本家庭部会の組織、事業内容等は次のとおりとなっています。

■令和２年度　部会の役員構成等

役　職	校長名・学校名	兼務する役職等
部会長	吉田岳夫 江別	全国部会道代表理事 全国部会常務理事 全国家庭振興会理事 全国技術検定道理事 家庭クラブ成人会長
副部会長	井上明子 札幌厚別	全国部会常務理事 全国家庭振興会評議員 調査研究委員長、企画委員、高教研部会長
	宮﨑円 月形	全国部会理事 企画委員長 調査研究委員
	池田延己 函館大妻	全国福祉部会道理事 全国部会理事 福祉委員長、調査研究委員、道地区委員
	髙瀬雅朗 札幌西陵	調査研究委員
	飯田知男 札幌丘珠	全国部会理事 調査研究委員
監　事	渡邉祐美子 千歳北陽	調査研究委員 道地区委員
	吉野光 野幌	調査研究委員 企画委員
理　事	宮本匠 当別	調査研究委員 企画委員
	坂野裕悦 名寄産業	調査研究委員、企画委員、道地区委員
	小森章史 置戸	調査研究委員、企画委員、道地区委員
	鈴木浩 三笠	調査研究委員、企画委員、道地区委員
	若宮栄 江陵	調査研究委員 企画委員
他の道地区委員	西川勤 倶知安	後志、調査研究委員
	山城宏一 登別青嶺	日胆、調査研究委員
	古市俊章 池田	十勝、調査研究委員
	吉田光利 釧明輝	釧根、調査研究委員

■令和２年度　部会の主な事業

月日	事　業　（会　場）
4/21	~~第１回家庭部会役員研究協議会（ライフォート）~~
4/22	~~家庭科技術検定常任理事会（江別高）~~
4/24	~~全国家庭科教育振興会理事会（全国事務局）~~
5/13	~~家庭部会総会（ライフォート）~~
5/14	~~道家庭クラブ連盟第１回研究協議会（江別高）~~
5/18	~~全国福祉校長会第１回理事会（東京）~~
〃	~~全国家庭部会、常務理事会、理事会（東京）~~
5/19	~~全国家庭部会総会、研究協議会　（東京）~~
7/30・31	~~全国家庭クラブ連盟指導者養成講座（東京）~~
7/30・31	全国家庭科実践研究大会岐阜大会（岐阜）
8/4・5	~~道家庭科教育研究協議会（かでる２・７）~~
8/4	~~全国家庭部会北海道地区校長会（〃）~~
8/5	~~道家庭科検定委員養成講座　食物　（三笠高）~~
8/6	~~道家庭科検定委員養成講座　被服・保育（江別高）~~
8/6・7	~~全国家庭クラブ連盟研究発表大会（大阪）~~
8/21	~~第５回北海道高校生介護技術コンテスト（北翔大）~~
8/21	第８回家庭部会意見・体験発表大会（江別高）
9/30・10/1	全道家庭クラブ研究大会、総会（釧明輝高）
10/3	「さんフェア 2020」（新札幌サンピアザ）
10/3	道高等学校産業教育意見・体験発表大会（札琴工高）
10/24・25	第 30 回全国産業教育フェア～大分大会（大分）
11/19	~~福祉に関する科目設置校研究協議会（剣淵高）~~
1/7	~~高教研家庭部会（エルプラザ）~~
2/5	全国常務理事会、理事会（東京）
2/22	~~道家庭クラブ連盟第２回研究協議会（ライフォート）~~
〃	~~第２回家庭部会役員研究協議会（ライフォート）~~

※取り消し線は中止を示す。
※その他の事業は、形式を変更して実施。

【令和２年度 北海道高等学校長協会家庭部会 組織図】

総会（全国加盟：Ｒ２年度 21 校）
常務理事会
理事会

全国高等学校長協会
家庭部会

北海道産業教育振興会

さんフェアは、３年に１回開催。
北海道産業教育振興会家庭部会長校は、江別高校。

全国８ブロック
校長部会
家庭部会

北海道高等学校長協会
家庭部会

公財）全国高等学校
家庭科教育振興会

総会（全国加盟：Ｒ２年度 190 校）

公財）全国高等学校
家庭技術委員会

全国高等学校
家庭クラブ連盟

高等学校
※研究紀要担当
胆振・日高地区
（静内農業高校）

役員会　（17 名）
①部会長
②副部会長
・家庭クラブ連盟成人会長
・家庭科技術検定委員長
・調査研究委員長
・企画委員長
・福祉委員長
・部会長委嘱副部会長
③理事
④監事
⑤地区代表委員（９地区）

全国福祉
高等学校
校長会

調査研究委員会
16 名
課題解決に向けた方策について
・実践事例の収集や紹介
・指導資料や具体的指導方法の提供

企画委員会
（運営協議会）
6 名
令和２年度北海道高等学校家庭科教育研究協議会
会場：かでる 2.7
事務局：月形高校

北海道高等学校家庭科
技術検定委員会
（事務局：江別高校）
令和元年度北海道高等学校家庭科技術検定評価研究協議会・検定委員養成講座
会場：江別高校

福祉委員会
3 名
福祉に関する教科・科目設置校研究協議会の企画等
（担当：《北海道地区理事校》函館大妻高校）

北海道高等学校
家庭クラブ連盟
（事務局：江別高校）

学科設置校教頭会
（事務局固定）
江別高校

学科設置校科長会
（事務局固定）
江別高校

研究発表大会・総会
(9/30～10/1) 釧明輝高校　会場：まなぽっと幣舞

※線 ═ ・ ═ ・ ═ で囲まれた部分は家庭部会の組織や事業等を示す。

北海道高等学校家庭科教育研究協議会について

北海道高等学校家庭科研究協議会会長
（北海道月形高等学校長）宮　﨑　　円

令和２年度第 69 回北海道高等学校家庭科研究協議会は、８月４日（火）～５日（水）の２日間、北海道立道民活動センター「かでる２．７」を主会場としての開催準備を進めてまいりましたが、新型コロナウイルスの感染収束の気配がないため、残念ながら今年度の開催を見合わせることとなりました。

ご多用の中、日々の授業実践についてご提言を予定されていた北海道札幌北高等学校　松本奈巳先生ならびに北海道阿寒高校　和田美智子先生におかれましては、本誌にて紙上発表をしていただいております。

また、研究協議会２日目に実施しておりましたグループ別体験研修につきましては、例年好評を博している家庭科技術検定に係る実習や消費者教育に加え、次期学習指導要領でも謳われている地域の気候や風土で培われた伝統的な衣服に関心をもつことができるよう、アイヌ文様の刺繍、高齢者の生活支援技術の基礎に関する実習を予定しておりましたがこれもまた、叶わぬ事となりました。

さて、新型コロナウイルズの感染拡大に伴い感染対策を講じてもなお感染のリスクが高い学習活動として家庭、技術・家庭における「児童生徒が近距離で活動する調理実習」が挙げられ、対応に苦慮される先生方が多かったことと存じます。家庭に関する科目においては、配当する総授業時数のうち、原則として 10 分の５以上を実験・実習に配当するよう指導計画を立てることが求められておりますので、調理実習だけではなく被服実習や保育所実習などの計画も変更を余儀なくされたことかと思います。しかしながら、コロナ禍で感染リスクを抑えながら最大限にできることは何かをお一人お一人が工夫され、授業を実施されていたことは本当に頼もしい限りです。一方で、北海道全体で見てみますと家庭科教諭は１校１人配置という学校が大多数となっております。ぜひ、本研究協議会をはじめ各種研修の機会を有効活用していただきますことと、近隣の先生方と情報交換の機会を持っていただきながら、より良い授業づくりを実践していただいきたいと節に願っております。

令和４年度からの新学習指導要領実施に向けて、令和３年度は早々の教科書の選定、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力・人間性」の３つの観点による評価とそれに基づくシラバスの準備等、いつもにも増して教科「家庭」に向き合う時間が必要になることと思われます。特に評価に関しましては、指導と評価の一体化はもとより、教師側が「何を教えるか」から、生徒に「どのような力が身についたのか」「何ができるようになったのか」という子どもたちの学びの深まりを把握し、次の発展的な指導につなげられるよう適切な評価の工夫（ルーブリックの活用等）を実践いただきたいと思います。

なお、令和３年度の本研究協議会は、８月３日（火）～４日（水）の２日間、例年どおり北海道立道民活動センター「かでる２．７」を主会場として準備を進めておりますが、先生方に安心してご参加いただきますよう全体会は一番大きな会場を準備しております。提言につきましては、十勝地区の先生方による共同研究ならびに空知地区北海道奈井江商業高校　高橋　亜記先生からご発表をいただく予定です。運営組織に関しましては、全道各地区より選出された運営研究員による運営で実施してまいります。ぜひ、全道の家庭科の先生方の授業力向上に資する研究協議会になりますよう、引き続き関係の皆様のご協力をお願い申し上げます。

提言１　ブレインズオンのスイッチを入れるICTの活用
～思考の可視化と共有でアクティブな学びの場をつくる

北海道札幌北高等学校　松本　奈巳

１　はじめに

本校では、平成28年度から文部科学省、今年度から国立政策研究所の指定事業をそれぞれ２年間受けており、アクティブ・ラーニング（以下AL）の視点を取り入れた実践及び資質能力の育成を生かしながら、組織的に研究を進めている。ここでは、ICT の活用でアクティブな学びの場をつくる家庭科の授業について報告する。

２　ALとは

本校では「ブレインズオン(brains-on)-なんとか理解しようと、熱心に考え、もがいている状態」で学ぶことをALの定義としている。主体的･対話的で深い学びを実現するための「視点」が本質であるという共通認識である。

３　家庭科での取組

家庭科でもブレインズオンで学びの質を高める様々な取組をしていく中で「他者の意見を知り、対話や協働をとおして、自己の考えを再構築する」という過程を効率的に見える化し、クラス全員で速やかに共有できれば、より生徒の理解は深まるのではと考えるようになった。また､今年度から本校にChromebookが試験的に導入されたことから、家庭科の授業でG Suite(クラウドで管理できる諸ツール)を活用｡思考を中断させずに、適切なペースで学習目標の達成を図ることをねらいとして、高齢者分野でChromebook の使用が効果的かつ必然性が高いと考えられる場面において１人１台で使用した。

４　実践内容

（１）思考の可視化から気づきを促す

生徒の持つ「高齢者のイメージ」をGoogleドキュメント(文章作成ツール)に一度に全員が入力し､それをテキストマイニング(自由形式で記述された文章を分析する手法)を利用して､図示した。その後、「自分の理想とする高齢者像」をGoogleJamboard(ホワイトボード)に作成し、この２つを比較させることで、①前者が「老化」、後者に「成熟」が焦点を当たることを意図し、②高齢者の心身の特徴や課題、エイジズムの問題について生徒の気づきが得られた上で、その後の高齢者の基本的な理解へつなげた。

（２）思考の共有から理解を深める

ある高齢者の事例から生活上の課題を読み取り、介護保険制度の利用やケアプランの検討を考えさせるワークについては、グループ毎にGoogleJamboard上でKJ法を実施し、そのまとめをGoogleスライド(プレゼンテーションソフト)に入力させ、クラスで共有した。全てのグループの内容が閲覧可能であるため、共通する事項も把握しやすく、高齢者の自分らしい生き方の考察へとスムーズにつなげることができた。

５　成果と課題

授業後のアンケートによると、約９割の生徒が「Chromebookの活用によって、作成した成果物や意見の共有がリアルタイムででき、理解が深まった」と評価した。今後も他の単元において、このようなアプローチでの授業デザインの検討や改善に努めたいと考えている。

６　おわりに

本校に赴任した年の授業参観の際に、グループワークの必然性やそのベネフィットが生徒に伝わっていないこと、適切なファシリテート不足を指摘されたことが、授業を見直す大きなきっかけとなった。また新型コロナウイルスへの授業対応も重なり、今ある資源で生徒にアクティブな学びの場をつくりたいという気持ちも今回の実践を後押しした。これからも生徒と協働し､アクティブな学びの場を構築していきたい。

提言２　教科横断型幼稚園交流学習

北海道阿寒高等学校　教諭　和田美智子

１　題材設定の目的

阿寒町では、町内にある幼稚園・小学校・中学校・高等学校の４つの学校が連携し、四校連携事業を行っている。連携事業の一環で、「幼稚園と高校は交流学習」は、平成８年度から家庭科の授業を中心にまで継続して行われていた。

昨年度から家庭科と芸術科（音楽）の教科横断型の体験学習として「幼稚園交流学習」を行った。教科横断型で行うことにより、多角的な視点で交流学習内容を捉えることができ、生徒たちに「主体的・対話的で深い学び」の中で、幼児への関心を持ち、幼児保育について考え、その意義について理解して欲しいと考えた。

また、キャリア教育の一環として、実際の保育活動から幼稚園教諭の仕事内容を理解し、自らの進路選択の幅を広げ、社会性や豊かな心の育成を目的として設定した。

２　授業の展開

（１）準備

①今回の取組は公益社団法人北海道私立幼稚園協会との連携で行った。札幌大谷短期大学の教授による導入授業内容は以下の通りである。

・幼稚園や保育園、認定こども園の違い
・園児の実態把握（幼稚園児の一日）
・手遊びや歌の体験

②幼稚園交流の指導計画作成の授業を４時間分行った。グループに分かれ、幼稚園教育要領の「ねらい及び内容」から「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の５つの領域について学び、その内容に基づく活動目標と内容を、グループ活動を行いながら考えた。

③中間発表

阿寒幼稚園園長や札幌大谷短期大学の教授のアドバイスを受け、指導案を部分修正。

（２）実践

幼稚園交流当日は、高校生の保育実習、昼食、自由遊びという内容で半日をかけて行われた。幼稚園の先生方は園児たちのフォローをするために各グループについていたが、極力手を出さず、生徒たちに対応を任せてくれたことで、生徒たちは保育活動の楽しさや大変さを、身をもって体験することができた。

・大根抜き、しっぽ取り、お絵かき（年少）
・絵本、たこ焼き器で料理（年少）
・楽器当て、歌、じゃんけん列車、パラシュート、楽器を鳴らす（年中）
・絵本、凧作り、凧揚げ（年長）
・絵本、マット運動、障害物リレー（年少）
・ちぎり絵、四季の歌（年中）
・紙飛行機、スライム作り（年中）
・音を体や絵で表現する（年長）
・カスタネットやマラカス作り（年長）

（３）まとめ

幼稚園交流学習成果発表会として各グループで活動内容を振り返り、その内容をパワーポイントでまとめ、発表を行った。生徒たちの発表のからは、「園児との話し方（口調）に気をつけて接した。」「常に笑顔でいることと体力が必要であった。」「ちょっとした表情や口調で機嫌が変わるのでとても繊細だと思った。」などの意見が出た。発表の際には市内の３園の園長、大谷短大の教授に参加いただき、意見や助言をいただいた。高校生にとって「園児たちとの関わり方」を考え、「社会性」や「豊かな心」を育成する取組になっている。

３　成果と課題

「幼稚園側との協力体制」と「継続性」が課題として感じられた。幼稚園側とより深く連携し、お互いの子どもたちにメリットがある活動を展開していきたい。

今回の取組は公益社団法人北海道私立幼稚園協会との連携で行った。私立幼稚園協会の多大なサポートがあったことに感謝しています。

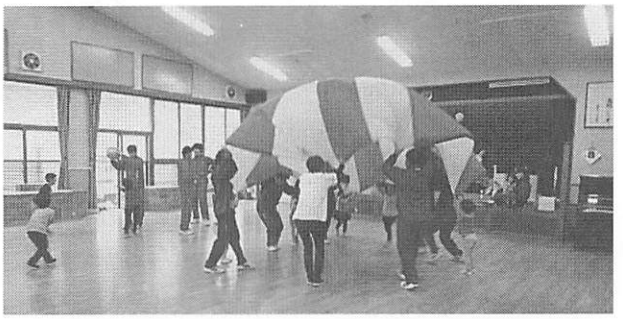
楽器音当てゲーム

たこ焼き器の料理

ボール遊び

マットででんぐり返り

スライム作り



パラシュート

仲良く昼食

みんなでパプリカ

Ⅱ　令和２年度北海道高等学校
家庭クラブ連盟活動報告

北海道高等学校家庭クラブ連盟の活動について

北海道家庭クラブ連盟成人会長
吉　田　岳　夫
（北海道江別高等学校長）

日頃より本連盟の諸活動に対し、多大なるご支援を賜り、心よりお礼を申し上げます。

令和２年度の北海道家庭クラブ連盟の活動報告をさせていただきます。

家庭クラブは、家庭科で学んだことを基礎・基本とし、家庭生活や地域社会の課題を考え、その改善向上を図る意欲と実践力を育てる活動を行っております。活動の中心は「ホームプロジェクト」と「学校家庭クラブ活動」です。「ホームプロジェクト」は、学校・家庭のために、一人ひとりが自分の生活を見つめ、家庭生活の充実向上を目指す実践活動です。「学校家庭クラブ活動」は、グループや学校単位で学校や地域の生活の充実向上をめざす活動です。家庭クラブ員の活動の成果を発表する場として、全国大会と全道大会が開催されますが、今年度はコロナ禍の影響により例年とは違い、データによる審査方式にての開催となりました。
その成果を報告いたします。

令和２年度は８月６日(木)、７日(金)に、富山県民会館（富山県）で開催される予定の第６８回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会は、残念ながらコロナ禍の影響によりデータ審査にての開催となりました。

学校家庭クラブ活動の部において、北海道代表として、札幌北高等学校家庭クラブの『Take action,Make a healthy life!～「食」を楽しんで「食」行動を変えよう～』が富山県教育委員会賞を受賞、ホームプロジェクトの部において、札幌丘珠高等学校　普通科　３年　植村羽音華さんの『親も子も喜ぶ！～キャラベン作り～』が全国家庭科教育協会賞を受賞しました。両校とも、審査委員から高い評価をいただきました。

１０月９日(金)、釧路明輝高等学校を担当校として前同大会を開催しました。例年とは異なり、研究発表はデータによる審査方式にて行いました。

来年度の全国大会への北海道代表校として、ホームプロジェクトの部が札幌丘珠高等学校普通科　２年　平川　沙季さん、学校家庭クラブ活動の部が札幌北高等学校家庭クラブに決定しました。今年度同様、来年度も素晴らしい結果が出ることを期待しています。

生徒研修も全員が集まって開催できなかったため、「北海道らしさをモチーフとしたモザイクアート」を題材に各校にてモザイクアートの制作を行いました。

終わりになりますが、今後とも本連盟の活動へのご支援・ご協力をいただきますようお願い申し上げ、報告とさせていただきます。

ホームプロジェクトの部　最優秀賞
札幌丘珠高等学校　普通科
２年　平川　沙季さん

学校家庭クラブ活動の部　最優秀賞
札幌北高等学校　家庭クラブ

第69回　北海道高等学校家庭クラブ連盟
研究大会・総会を終えて

令和２年度北海道高等学校家庭クラブ連盟研究大会・総会当番校
北海道釧路明輝高等学校　教諭　　荒　　嘉　律

１　はじめに

今年度、本連盟の研究発表大会は昨年度の札幌北高等学校から引き継ぎ、本校が当番校となり、釧路市にて開催される予定でした。しかしながら2020年、世界的な感染拡大となった新型コロナウィルス（COVID-19）感染症の影響を受けて通常開催ではなく、研究発表は書類審査、生徒研修は各校での実施となりました。本大会を開催するにあたり、感染症対策を講じながらの研究活動、発表資料の作成、生徒研修の実施など加盟校家庭クラブ員をはじめ、指導に当たられた先生には多くのご苦労をおかけしたことと思います。この場をお借りし、感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

例年にない形での開催にもかかわらず、研究発表では「学校家庭クラブ活動の部」に４校、「ホームプロジェクトの部」には３校からの応募がありました。また、生徒研修では、ほぼ全ての加盟校が取り組んでいただいたことに重ねて感謝申し上げます。

２　研究発表

各校の発表は、例年の研究要旨（Ａ４サイズ２枚）に加えて、スライド資料（30枚以内）により審査を行いました。

(1)　学校家庭クラブ活動の部

学校家庭クラブ活動の部では、どの学校も地域との関わりを意識した素晴らしい発表でした。その中でも最優秀賞は、インターネットを活用した取組だった札幌北高校家庭クラブの「Share a happy stay home time!～今だからこそ、自分でつくる楽しさを！～」となりました。

(2) ホームプロジェクトの部

ホームプロジェクトの部では、各発表も妹のアレルギー、父の生活習慣病など同居する家族の生活課題の改善に取組む内容でした。最優秀賞は、一緒に暮らすおばあちゃんとの生活を高齢者の心身の特徴から見直した札幌丘珠高校２年平川沙季さんの「祖母との暮らし～楽しく豊に～」となりました。

３　生徒研修

生徒研修は各校での取組となるということで、当番校より模造紙、折り紙などを送付して「北海道らしさをモチーフとしたモザイクアート」の制作を実施しました。各校の家庭クラブ員の皆さん、素晴らしい作品を仕上げていただき、本当にありがとうございます。

（制作の様子）

４　おわりに

今大会の結果により、来年度の全国高等学校家庭クラブ連盟研究発表大会の代表校が決定いたしました。新型感染症の収束が見えない中ではありますが、代表２校におかれましては北海道地区代表として素晴らしい発表を期待しております。

この後、来年度の当番校である石狩地区の当別高等学校へ引き継いで参ります。来年度の大会は全道の家庭クラブ員が顔を合わせられることを祈念いたします。

Ⅲ　家庭科教育に関する報告

第８回　北海道高等学校長協会家庭部会
意見・体験発表大会を開催して

事務局 北海道江別高等学校　教諭　鈴木　朋美

１　大会を運営して

今年度で８回目を迎えた家庭部会意見・体験発表大会は、『全道の高等学校で家庭・福祉を学んでいる生徒が、日頃の学習で学んだことの成果について、意見や体験を発表するとともに、生徒相互の交流をとおして、「生きる力」を育み、家庭・福祉教育の充実を図る』ことを目的に実施しています。

しかしながら、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、生徒が一同に介しての発表大会は実施することができず、提出された発表原稿の審査のみの大会となりました。

審査会は８月２１日に江別高校において、札幌厚別高等学校井上明子校長先生をはじめとする３名の審査員の先生方によって行われました。原稿のみ提出という形式で参加しやすかったせいか、例年よりも多い１１校の参加がありました。残念ながら生徒ひとり一人の生の声を聞くことはできませんでしたが、いずれの内容も、「家庭・福祉」の授業や実習・体験・ホームプロジェクトなどをとおして、自分の進路や夢・生き方につなげており、今後の努力に期待できる内容となっていました。今年度は普通科からの参加もあり、多様化した社会の中で、主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる家庭・福祉教育の「生きる力」を感じることができました。

今年度参加いただいた各高校の生徒の皆さん、ご指導をいただいた先生方に深く感謝申し上げます。来年度は従来の発表大会ができるよう、一日も早いコロナ禍の収束を願うとともに、多くの生徒が参加できるよう、ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

２　大会参加者

(1) 帯広緑陽高校　我妻　結菜
　『もっと医療に関心を
　～新型コロナウイルスの影響を受けて～』
(2) 当別高校　伊東　由依
　『小さなことを一歩ずつ』
(3)名寄産業高校　小神　美佑
　『未来の自分を探して』
(4)池田高校　浦西　彩花
　『子ども達に心の居場所を』
(5)置戸高校　川岸　愛梨
　『私を強くする笑顔と言葉』
(6)江別高校　水上　彩也佳
　『夢への向上心』
(7)剣淵高校　木村　夏奈美
　『わたしが目指す福祉』
(8)三笠高校　太田　菜月
　『夢への第一歩』
(9)えりも高校　野阪　洸介
　『団結は力なり』
(10)石狩翔陽高校　若松　朱里
　『私が家庭科・福祉で学んだこと』
(11)江陵高校　國重　真央
　『自分の中のフィルター』

３　大会結果

最優秀賞（産振推薦）置戸高校　川岸　愛梨
優秀賞（産振推薦）江別高校　水上　彩也佳
優秀賞　当別高校　伊東　由依

初任段階教員研修Ⅰ年次研修（高等学校）

「一般研修」に参加して

北海道剣淵高等学校　教諭　髙倉　　彩

1　令和２年度初任段階教員研修の概要

今年度は新型コロナウイルスの影響もあって、第Ⅰ期・第Ⅱ期はオンデマンド形式での研修となり、第Ⅲ期のみ集合形式での研修となった。

2　学校での取り組み（教科指導）

第Ⅰ期・第Ⅱ期での研修を受講後に第Ⅲ期までの課題として、学習指導案を作成し授業を実践した。新型コロナウイルスの影響もあり、外部での実習等も難しい状況の中、どのような授業を行えば家庭科の大切さや面白さが伝わるのかという不安を抱えながらのスタートとなった。

10月まで授業を行った後に、生徒にアンケートを実施。アンケートから明らかになった成果としては、「プリントの配布により、板書が苦手な生徒の負担を軽減できた」「活動の時間を増やすことで、体験を通しての学びに繋げることができた」の２点。また、「グループワーク活動が多かった分、個人でどれだけ理解したのかを毎時間判断することが難しかった」という評価についての課題が残った。

3　第Ⅲ期での学び

第Ⅲ期では以下の２点について理解を深めることができた。

（1）ルーブリック評価について

ルーブリック評価において評価規準を設定する際に、最低限どのような力が生徒に身についていれば良いのかを明確にする必要がある。また、手立てを必要とする生徒に対しての具体的な対策案も指導計画に位置付けることで、指導と評価の一体化を図ることが可能となる。さらに、評価表を生徒に提示することで、何を期待されているのかを生徒自身が理解し、目標に向かって取り組めるため、意欲の向上へと繋がることを理解した。

（2）ＩＣＴについて

情報収取やデジタル教材を用いることで、シミュレーションを容易にし、課題解決の方向性を持たせやすいことを理解した。例えば、被服実習において、事前に撮影済み動画を繰り返し表示することで、授業時は最低限の示範のみとなる。また、動画を見て作業を進めることができる生徒もいるため、授業の進行が効率的に実践的な学習へと結びつく。他にも、プレゼンテーションの場として活用することで、クラス全体で内容を共有しやすくなることがわかった。

4　これからの取り組み

次年度に向けて、指導案に評価規準や評価方法を記載し、そのクラスの状況にあった具体性のある指導ができるように改善していきたい。まずは生徒理解を意識し、どのような指導方法が効果的なのかを考察していく必要がある。

ＩＣＴについては普段から取り入れていき、視覚的に刺激のある授業を行っていきたい。また、今年度は新型コロナウイルスの影響で、地域との関りが無くなってしまった。家庭や社会との繋がりを考え、人と関わる力を高めるために、ＩＣＴを活用しながら地域との交流も行っていきたい。

家族の一員として協力することへの関心が少なくなっている今、少しでも家庭科に興味を持ち、主体的で対話的な学習となるような授業づくりを心掛けたいと感じてる。

中堅教諭等資質向上研修（高等学校）
第Ⅰ期・Ⅱ期研修教科別部会（家庭科）に参加して

北海道芦別高等学校　教諭　山　田　真　代

1　期　日

第Ⅰ期　オンデマンド形式による研修
（９～１２月）

第Ⅱ期　オンデマンド形式による研修
（１２～１月）
遠隔形式による研修
令和３年１月６日

2　目　的

教育公務員特例法第２４条に基づき、当該教諭等に対し、中堅教諭として必要な資質能力の育成・向上が図られるよう、講義や協議、演習などを通じて、中核的な役割を果たすことが期待される教諭等としての職務の遂行に必要な事項に関する実践的な研修を行う。

3　場　所　北海道芦別高等学校

4　参加者　３名

5　運営者

高校教育課高校教育指導係
指導主事　近藤　麻理子　氏

留萌教育局教育支援課高等学校教育指導班
指導主事　髙井　　央　氏

6　研修内容

(1)これまでの取組課題の提出

①自校及び自身の授業におけるＩＣＴ活用の現状と課題。

②自校におけるカリキュラム・マネジメントの現状と課題。

③自校及び自身の指導と評価の一体化の現状と課題。

④自校のCAN-DOリスト及びシラバス、年間指導計画

⑤これまでに実施した任意の単元の「指導と評価の計画」

(2)第Ⅰ期研修【オンデマンド形式】

①教科指導の工夫改善Ⅰ

・家庭科教育の現状と課題及び新学習指導要領について

・「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」の実際

・教育課程の編成・実施と改善

・主体的、対話的で深い学びについて

・指導と評価の一体化

・ミドルリーダーとしての役割と指導の充実に向けた方策①について視聴した。

(3)課業期間中の研修

第Ⅰ期のオンデマンド研修に基づき、授業実践や指導の充実に向けた方策、事前に提出した、任意の単元の「指導と評価の計画」をどのように改善し、新たな単元の「指導と評価の計画」を作成したかをプレゼンテーションにまとめた。

(4)第Ⅱ期研修（Zoomによる遠隔研修）

各自、課業期間中の研修で作成したプレゼンテーションを用いて発表し、他校の先生方の取組や交流などを行った。

7　おわりに

今年度は、新型コロナウイルスの影響により、対面形式での研修は実施できなかったが、オンデマンド形式や Zoom を使用した研修を通して、多くのことを学ばせていただいた。

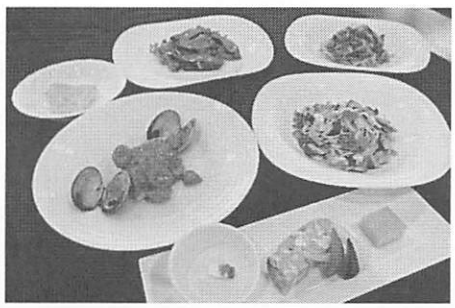
また、近藤指導主事、髙井指導主事からご助言等をいただく中で、学校経営方針に合わせた授業づくりや地域・社会とのつながり、単元の中でどのような力を身につけさせたいのかなどを明確にすることが大切であるということを再確認できた。

Ⅳ　各地区（ブロック）家庭科研究会の一年間の活動状況等

空知管内

◇名称；空知高等学校家庭科教育研究会
◇運営母体；空知高等学校教育研究会
◇実施回数；１年に１回
◇会員学校数／管内学校数　２８校／２８校
◇会員教員数；５４人（実習助手等含む）
◇次年度事務局校；北海道芦別高等学校

◆実施日時　令和２年１０月９日　２１名参加
(1)総会
・令和　元年度　事業報告・会計決算報告
・令和　２年度　事業計画案・予算案
・令和　２年度　会員・規約の確認
・事務局ローテーションの確認
・令和　３年度　研究会の内容について
(2)研修
①学校概要説明
②製菓実習授業見学
③調理実習授業見学（レストランシミュレーション実習）・昼食体験
(3)研究協議
「新型コロナウイルス対策を講じた上での実習授業の実施方法について」
助言　北海道教育庁空知教育局
教育支援課高等学校教育指導班
指導主事　山本 昌枝　様



石狩管内

◇名称；北海道高等学校教育研究会
石狩支部家庭部会
◇運営母体；高教研石狩支部家庭部会
◇実施回数；１年に３回
◇会員学校数／管内学校数　３６校／７０校
◇会員教員数／管内教員数　５２人／１０７人
◇次年度事務局校；北海道札幌手稲高等学校
◆実施日時　令和２年５月１９日予定でしたが、中止とし、総会についてはブロック代表者会議にて代決、研究協議については資料提供のみの実施とした。
(1) 総会
・令和元年（2019 年）度事業報告
・令和元年（2019 年）度会計決算報告
・会計監査報告
・令和２年（2020 年）度研究協議会計画（案）
・令和２年（2020 年）度会計予算（案）
・令和２年（2020 年）度役員一覧（案）
・新役員紹介
(2) 研究協議
・実践発表
家庭科で扱う「色彩」の授業実践について
札幌工業高等学校（前年度　札幌南陵高等学校）
教諭　髙橋　理緒
◆実施日時　令和２年 10 月 13 日（参加者 25 名）
(1) 実技研修
①エコロジーテーマガーデン「えこりん村」施設見学
②羊毛クラフト体験
③研究協議「羊毛フェルト」
(2) 各ブロック情報交換・交流会
◆実施日時　令和３年２月２日⇒中止
・予定されていた内容
(1) 講演
「絵本セラピストから学ぼう
～絵本は心の処方箋～」
講師　苫小牧読み聞かせ文庫活動連絡会
代表絵本セラピスト
谷口　佳子　氏
(2) 各ブロック情報交換・交流会

後志支部

◇名称;第３９回後志管内高等学校家庭科研究会総会・研究協議会
◇運営母体；後志管内高等学校家庭科研究会
◇実施回数；１年に１回
◇会員学校数／管内学校数　１４校／２０校
◇会員教員数／管内教員数　１４人／２０人
◇次年度事務局校；北海道小樽桜陽高等学校

◆実施日時　総　会：書面決議
　　研究会：今年度実施なし

総会
1　本年度役員の確認
2　令和元年度事業報告
3　令和２年度事業（案）
4　令和３年度以降の当番校の確認
5　令和３年度全道家庭科研究協議会運営研究員等の確認
6　その他　会則の改正について

胆振管内

◇名称;令和２年度胆振管内高等学校教育研究会家庭部会
◇運営母体; 胆振管内高等学校教育研究会家庭部会
◇実施回数;１回／年（今年度は未実施）
◇会員学校数／管内学校数　25 校／25 校
◇会員教員数／管内教員数　32 人／33 人（講師５名含む）
◇次年度事務局校;北海道登別青嶺高等学校

◆コロナウィルス感染拡大のため中止
研究会の代わりとして、各校に実習（主として調理実習）実施の有無や実施方法等を伺い、まとめたものを配布した。

日高管内

◇名称；令和２年度日高管内高等学校教育研究会家庭科研究会
◇運営母体；北海道浦河高等学校
◇実施回数；１回
◇会員学校数／管内学校数　６校／７校
◇会員教員数／管内教員数　６人／８人
◇次年度事務局校；北海道日高高等学校

◆実施日時　令和２年 10 月 27 日(火)
　　６名参加予定
　　今年度、新型コロナウイルス感染症の影響で、急遽中止
　　講演資料のみ、各校へメールで配信

(1) 講　　演　「新学習指導要領について」
　　講師　北海道えりも高等学校教頭
　　石　川　博　史　様

(2) 研究協議
①「コロナ禍での実技実習等の各校の工夫について」
②「防災教育等の各校の実践例について」

(3) その他
・令和３年度以降の当番校の確認
・令和３年度以降家庭科研究協議会提言者の確認
・令和３年度家庭科研究協議会運営委員の確認

渡島・檜山地区

◇名称；令和２年度　渡島・檜山地区高等学校家庭科部会研究協議会
◇運営母体；北海道大野農業高等学校
◇実施回数；１回
◇会員学校数／管内学校数　２０／２９校
◇会員教員数／管内教員数　３６／４２人
◇次年度事務局校；北海道函館水産高等学校

◆実施日時 令和２年10月28日（水）13名参加

(1)総会
・令和元年度事業報告・決算報告
・令和元年度会計監査報告
・令和２年度予算案審議
・当番校ローテーション確認

(2)研究協議
・「主体的な学びを広げる教材・教具の研究」
・「新型コロナウイルス感染症に向けて各学校での実習の取り組み状況」
・「ＳＤＧｓを意識した活動」

＜内容＞

各校が授業プリント、実習作品、教材見本等を持ち寄り発表・交流した。

新型コロナウイルス対策を講じた調理実習や被服実習の対応について各校での取り組みを情報交換し、今後の授業展開に役立てられるよう質疑応答も活発に行われた。

ＳＤＧｓを取り入れた授業案の情報提供が行われ、新学習指導要領に向けた実践内容を確認することができた。

上川・名寄地区

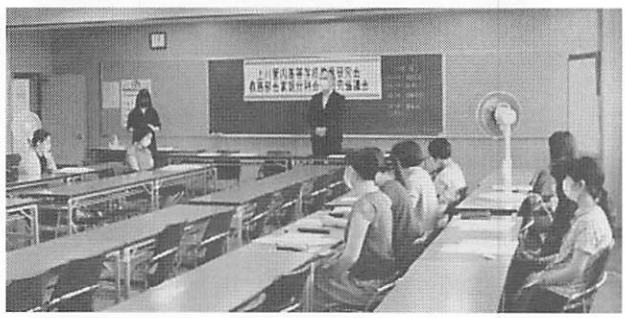
◇名称；上川管内高等学校教育研究会教務部会家庭分科会
◇運営母体；上川管内高等学校教育研究会
◇実施回数；１回／１年　＊今年度は１回中止
◇会員学校数／管内学校数　２５校／３０校
◇会員教員数／管内教員数　４４人／４６人
◇次年度事務局校；北海道名寄高等学校

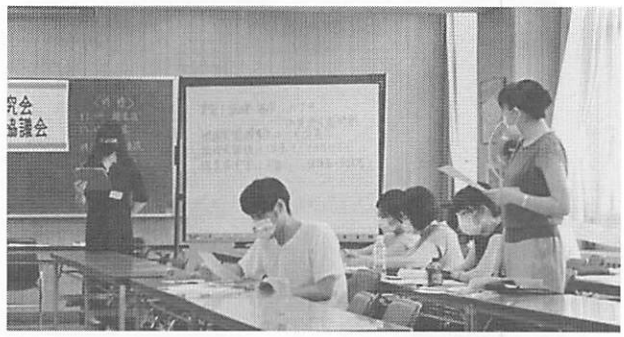
◆実施日時　令和２年８月３日（月）２１名参加

（１）総会
・　令和元年度研究協議会報告
・　令和元年度会計決算報告・監査報告
・　役員改選
・　令和２年度研究協議会計画（案）・予算（案）
・　事務局校、当番校、運営委員に関する確認

（２）情報交流

「コロナ下での授業、実習等の持ち方について各校での工夫と今後の課題についての協議」





留 萌 地 区

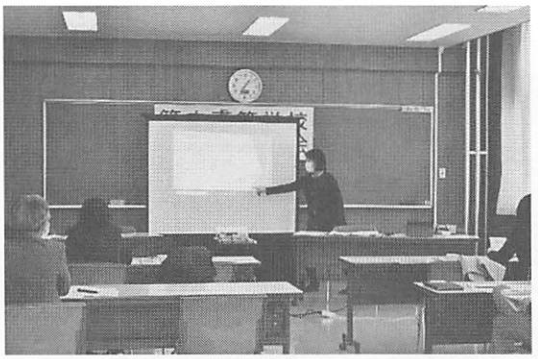
◇名称;留萌管内高等学校教育研究会
◇運営母体;留萌管内高等学校家庭科教育研究協議会
◇実施回数;１回／年
◇会員学校数／管内学校数　６校／６校
◇会員教員数／管内教員数　４人／４人
◇次年度事務局校;北海道手塩高等学校

◆実施日　令和３年１月１３日（水）４名参加

（１）総会
・令和元年度事業報告
・令和元年度会計報告
・令和元年度監査報告
・令和２年度事業計画（案）
・令和２年度予算（案）
・規約確認

（２）研修
家庭科技術検定　食物調理２級

（３）講演
「新学習指導要領に基づく評価について」
講師　留萌教育局　指導主事
高井　　央　様



（４）研究協議
・各校の取り組みと課題

宗 谷 管 内

◇名称;宗谷管内高等学校教育研究会家庭部会研究協議会
◇運営母体;宗谷管内高等学校教育研究会
◇実施回数;１回／２年
◇会員学校数／管内学校数　７校／７校
◇会員教員数／管内教員数　７人／７人
◇次年度事務局校;稚内大谷高等学校
※コロナの影響を鑑み実施できず。

オホーツク管内

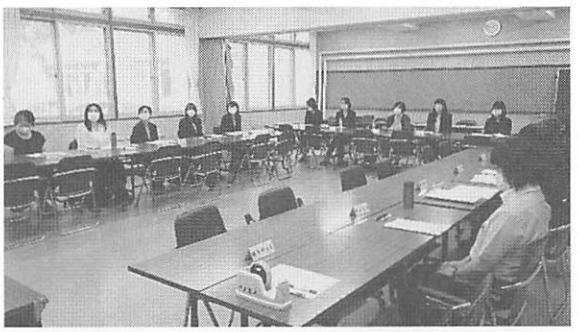
◇名称；オホーツク管内高等学校家庭科教育研究会
◇運営母体；オホーツク管内高等学校家庭科教育研究会
◇実施回数；１年に１回
◇会員学校数／管内学校数　24 校／24 校
◇会員教員数／管内教員数　29 人／29 人
◇次年度事務局校；斜里高等学校

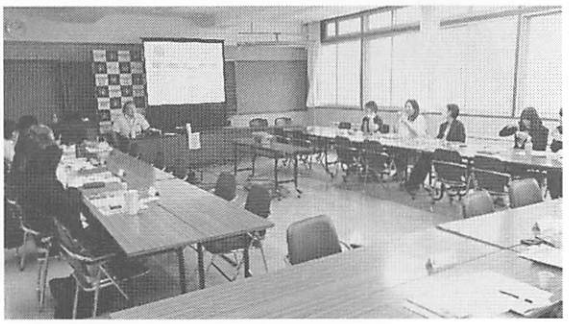
◆実施日時 令和２年９月１８日(金)16 名参加

(1) 総　会
・令和元年度事業報告および決算報告
・令和２年度事業計画および予算審議
・事務局校の確認　・その他

(2) 研究協議
「成年年齢引き下げに伴う内容」「SDGsに関する内容」について、実践報告および情報交換

(3) 実技講習
「美味しさ」と「香り」
～香りの不思議な世界～
講師　東京農業大学　佐藤　広顕　氏





十勝管内

◇名称；十勝管内高等学校教育研究会家庭分科会
◇運営母体；十勝管内高等学校教育研究会
◇実施回数；2回／年
◇会員学校数／管内学校数　23校／24校
◇会員教員数／管内教員数　39人／40人
（講師、実習助手を含む）
◇次年度事務局校；北海道大樹高等学校

◆実施日 令和2年7月17日(月)
総会（書面審議）

◆実施日　令和2年10月22日(木) 17名参加
研究協議会（於　帯広柏葉高等学校）
(1) 講話「成人年齢18歳改正にあたり」
講師:一般社団法人北海道消費者協会教育開発部長　斎藤　清美　氏
(2) 講話「新学習指導要領における家庭科の学習指導について」
講師：北海道教育庁ｵﾎｰﾂｸ教育局教育支援課高等学校教育指導班指導主事
後藤　幸洋　氏
(3) 研究協議
<テーマ>
「生活課題を主体的に解決できる生徒の育成を目指した家庭科教育の実践」
①各学校の授業実践交流「新型コロナウイルス感染症の対策を踏まえた取組」
②全道家庭科教育研究会運営委員について
③管内家庭分科会当番校ローテーションについて
(4) ブロック研究協議
・Aブロック　6名参加
ホームプロジェクト、授業のあり方について
・Bブロック　6名参加
ブロック会議の持ち方について
体験学習における感染症対策について
・Cブロック　5名参加
ブロック会議の持ち方について　調理実習における感染症対策について

釧根地区

◇名称；釧根地区高等学校教育研究会
家庭科部会
◇運営母体；釧根地区高等学校研究会
◇実施回数；1回／年
◇会員学校数／管内学校数　20校／20校
◇会員教員数／管内教員数　28人／28人
◇次年度事務局校；北海道厚岸翔洋高等学校

◆実施日　令和3年2月5日(火)12名参加
(1) 総会・報告
・令和元年度事業報告
・令和2年度事業計画（案）について
・令和3年度事務局、当番校について
・令和2年度 第69回 北海道高等学校家庭科教育研究協議会 報告
(2) 研究授業
「商業教育との連携を踏まえた，人生プラン設計」
授業者：釧路商業高等学校
吉田　祐貴　教諭
授業内容：人生プラン設計
(3)研究協議
・研究授業について
・教科横断型授業の取り組みについて
・コロナ対策を踏まえた実習について

V 特　別　寄　稿

家庭科教育への期待

北海道高等学校長協会家庭部会副部会長
北海道札幌西陵高等学校　校長　髙　瀬　雅　朗

「教育は人なり」。

平成 23 年 4 月から、道立から市立への転換を目指していた三笠高校の「市立高校設立準備室」に勤務することとなり、「まちづくりは人づくり」と当時の市長から言葉をいただき、目標を持って集まってくるはずの「生徒」を育てる気概を改めて肝に据え、そのためには自分自身が成長することが肝要であると意識して、準備業務に携わりました。思えば、この時から家庭科教育に少しく携わることになりました。

準備室時代は、岐阜県立大垣桜高等学校、三重県立相可高等学校にお世話になりました。加えて、当時の文部科学省教科調査官であった望月昌代先生との接点を持つことが出来、家庭科教育の勉強が出来たことは、私が新しく「食物調理科」を立ち上げるためには必須の知識であり、これらの経験がなければ、現在の三笠高校はないと言っても過言ではありません。同じ頃、以前からつながりのあった函館大妻高校の池田校長先生にお世話になり、学校を視察させていただきました。その折に校訓「恥を知れ」の額を拝見し、自分の内面をもっと高めていくこと、家庭科の高校の長としてもっと学んでいかねばならないと意を決したことが思い出されます。

平成 24 年 4 月に開校した市立の北海道三笠高等学校。「食物調理科」の単置校ですが、「調理師コース」「製菓コース」の２つのコースを持つことは、既定の路線でした。「調理師コース」は調理師養成施設である関係から、学習指導要領と調理師養成施設指導要領との両方を同時に満たさなければならず、教務内規を作成するときに履修条件をどのようにするかで苦労をしました。また、「製菓コース」は「製菓衛生師」の資格を持つために専修学校のスクーリングを受けることとなり、関係する専修学校との連絡調整に奔走しました。

そんな時に、当時の家庭部会長加藤和美先生が学校に訪ねて来られて、家庭部会の役員に就くことを要請されました。それ以降、家庭部会で役員を務めさせていただくこととなりました。

平成 26 年 11 月に、全国高等学校長協会家庭部会第 112 回研究協議会（秋季）新潟大会において、実践発表の機会をいただきました。発表後、全国各地域の校長から、地域の高校事情を聞き、北海道だけでなく全国においても、高校の統廃合が進んでいることを実感し、間口の小さな学校でも、地域と一体となり工夫することにより目の輝く生徒が集う学校になることを共有しました。奇しくも、10 年の年月を経て、令和元年 10 月に第 122 回研究協議会（秋季）北海道大会を、部会長吉田岳夫校長をリーダーとして家庭科の先生方と一緒に運営することになったことに、縁を感じます。

平成 27 年度には、全国高等学校家庭クラブ研究発表大会北海道大会があり、実行委員として運営に携わりました。当番校である当別高校の杉本校長（当時）を先頭に、全道の家庭科の先生方の頑張りが、大会が成功裏に終了し、非常に喜ばしい限りでした。

社会の急激な変化にともない、生徒がこれからの予測困難な社会を社会人として生き抜いていくために、自分自身の意志と判断に基づいて行動することが求められています。高等学校家庭科教育が、総合的な学びの場としてそのための資質・能力を育成する最適な教科であると私は確信しています。

「教育は人なり」。家庭科教育の最前線で生徒と接する先生方が、今後益々研鑽を積まれ、「生きる力」を持った生徒の育成に尽力されることを期待しています。

江陵高等学校の閉校によせて

江陵高等学校学校長　若　宮　　栄

令和２年度をもって、幕別高等学校と江陵高等学校の再編統合のため６５年の歩みと歴史に幕を下ろすこととなりました。

平成１７年４月に普通科福祉コースを開設以来、家庭科部会に所属をさせていただき、部会の皆様に温かいご支援をいただき、心から敬意と感謝を申し上げます。

本校は昭和２１年、池田町字大通１丁目に池田服装裁断学院を出発点としてスタートいたしました。当時の学院生たちは、新しい時代に対応する新しい洋服を創り出す喜びに情熱を傾けながら洋服に関する知識と技術の修得に励んでおりました。また“女性の園”として、町民に親しまれておりました。

昭和３１年には、学校法人多田学園池田女子高等学校の設置が許可され、家庭科被服課程の女子高校として発足することになった。ここが高等学校教育の出発点となりました。

昭和４０年に校名を池田西高等学校と改称しました。学科については普通科、家庭科（後の被服科）が設置されてピーク時の昭和 41 年には両科を合わせて６６６名の在籍数でありました。生徒の増加とそれに対応した教師陣の充実によって、授業はもちろんクラブ活動の面においても活況を呈しました。

昭和４３年には、私学の特色を活かして調理師免許を卒業とともに取得できる食物科が新設されました。しかし、時代の変化もあって被服科については昭和４５年から募集停止といたしました。さらには、高度経済成長期に入ると普通科のニーズが高まり食物科も閉科することになりました。各クラブ活動などでは、野球部が北北海道大会に連続出場、バトミントン部では全国大会に出場を果たし、ベスト１６位の輝かしい成績を修めました。しかし、時代の流れとともに家族形態やライフスタイルの在り方も大きく変化し、さらに少子化も進み、入学者の減少へと繋がっていきました。

昭和６０年には、少子化を背景に幕別町に移転し、現在の江陵高等学校として積極的な留学生の受け入れや国際交流にも関わって来ました。また、平成１７年には福祉コースを設置して現在は福祉科として地域に定着しています。クラブ活動では野球・アイスホッケー・バトミントン・女子バレーなど全道大会、全国大会で活躍しました。また、卒業生の中にはプロ野球や女子アイスホッケーの代表としてオリンピックに選出されるなど、とても活気のある学校として現在に至ることとなりました。しかし、過疎化や少子高齢化等の多くの課題を抱えた昨今、再編整備計画の要望を受けて校史を閉じることになりました。本校の歴史を振り返ると開校以来、家庭科・被服科・食物科・福祉科と約６５年間、家庭科教育に関わりを持って来た事を感じます。

私学として大変な時代や学校経営の危機も経験してきましたが、平成１６年には経営危機の打開を図るために置戸高等学校に全職員で伺って施設の見学や教育課程の研修をさせていただきました。また、函館大妻高等学校にも伺い、福祉科経営についてのお話を聞かせていただいたことが、ついこの間のような気がしてとても懐かしく思えます。

この間、家庭科設置校の研究協議会に参加をさせていただき、研究協議会の当番校を担当するなど本当に貴重な経験をさせていただきました。また、家庭科・福祉科教育において生徒のために業務の大変な中でも立派な取り組みをしている先生方と語らえた事が私にとっての良い思い出です。

本校は閉校となりますが、関係各位に重ねて感謝を申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。大変お世話になりました。

編　集　後　記

皆様のおかげをもちまして、北海道高等学校長協会家庭部会誌「こです　ＨＯＫＫＡＩＤＯ　２０２０」が完成しました。お忙しい中、原稿を執筆いただきました皆様方に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

今年度は新型コロナウイルス感染症が地球規模で拡大し、私たちの生活に大きな影響を与え、経済をはじめ様々な活動が制限されました。学校においては、昨年１月以降多数の通知等が発出され、対応に追われたところです。また、全国に緊急事態宣言が発出され、一斉臨時休業になるなど、これまでにない年となりました。分散登校や時差登校、リモート学習など今まで経験のない取り組みを行いつつ、感染対策を講じながら対面授業に戻りました。可能なものから学校行事も行い始めましたが、更なる感染拡大の事態になっております。本部会においても多くの研究会や大会が中止となりました。先が見えない状況の中、１年が経過します。終息されずともワクチンの開発等による新型コロナウイルス感染症の早い収束を願うところです。

私は家庭科のある学校に勤務するのは初めてで、年度当初に部会事務局から「今年度の『こです』の編集、宜しくお願いします」との連絡を受けましたが、さて、何のことかと科長に聞き、やっと理解したところです。校長室にある「こです」を確認し、そこに記載されている優れた研究・実践が脈々と継承されていることに感心しました。世の中がどのような状況であれ、この伝統が継承されていくことを願い、編集担当を代表してのご挨拶とします。

こですＨＯＫＫＡＩＤＯ２０２０編集担当校

北海道名寄産業高等学校長　坂　野　裕　悦

北海道高等学校長協会家庭部会　こです HOKKAIDO

発行日　令和３年３月31日
発　行　北海道高等学校長協会家庭部会事務局
（北海道江別高等学校）
編　集　北海道名寄産業高等学校
印刷所　社会福祉法人　共友会　札幌福祉印刷
札幌市西区西町北15丁目５番７号
TEL　(011) 667-7771
FAX　(011) 667-9750

こです　HOKKAIDO とは

「こ」Collected papers …… 集　録
「で」Domestic Science …… 家庭科
「す」Studies …… 研　究

家庭部会が研修して、それをまとめあげる
こーして仕上げることを、でかすと解釈し
北海道は、「こーですョ」という意味です